

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第11期 第1年 第1回 第1日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2016(平成28)年4月24日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 25人

葉 元聡、鈴木 イエレナ、チャクラヴァルティー アルナンシユ、金 スンオ
グ、タカハシ ライゼール ラモス、レ ベト ギア カン、幕内 嘉雯、河本
ファビオ 良則、ヘイ ジャフィ、スタント イルワン、ピーターソン ケリー、
河 相宇、バルトコバ オクサナ、ホサニ アハマド ユースフ、牟 鳳菊、
デイトマー ダニエラ、韓 簫、ザスカ カリーナ、ケゼングア
エドワード ムウインビ、徐 智妍、キースタ ケーシー ジェイ、蔣 香梅、
ヴィラマー ジェリー、鎌田 ファチマ、ヒラチャン アスカ

(2) 事務局

鈴木 室長、小川 担当課長、北谷 担当課長、須藤 課長補佐、岩切 担当
係長、丸橋 職員、鈴木 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 8人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 委嘱状の交付

(4) 副市長あいさつ

(5) 事務局の紹介

(6) 代表者の自己紹介

(7) 正副委員長の選出

- (8) 年間日程について
- (9) 市内視察について
- (10) インターナショナル・フェスティバルについて
- (11) 事務連絡
- (12) 閉会

【開会】

- (開会し、事務局から配布資料の説明)
- (委嘱状交付)

【伊藤副市長のあいさつ】

伊藤副市長「川崎市は、92年前に誕生したので今92歳になる。当時は、人口が4万8,000人、それが、現在は今年の4月で148万人ということで、ものすごく多くの方が川崎に住んでいる。外国人市民も、今では125の国と地域から約3万3,000人の方が川崎で生活をしている。今日、この会場に来る前に川崎駅の周辺で合同開催されているアジア交流音楽祭とアジアンフェスタに出席してきた。多くの国と地域の方々が、日本人も外国人も関係ないしに非常に賑やかに楽しんで、交流をしていた。

川崎市では昔から外国の人たちと共生してまちづくりをしていこうということで取り組んでいる。この外国人市民代表者会議も第10期が終わり、みなさんで第11期ということになるが、ちょうど20年前に全国に先駆けて条例で設置され、みんなが共に生きる、共生するまちをつくりあげていこうということで取り組んできた。先日、4月20日には第10期の委員の方から、2015年度の活動報告と5つの提言をいただいた。今後、提言にもとづいて、私たち行政と議会で一生懸命取り組んでいきたいと考えている。

先ほど、みなさんに委嘱状を渡させていただきました。外国人が住みやすいまちというのは、日本人も含めて、みんなが住みやすいまちになると考えている。これから2年間、みなさんにはどういうことをしたらこの川崎がもっと住みやすくなるのか、どうしたら便利になるのかといったことを話し合ってください、提言をいただけたらと思っている。どうぞよろしくお願いいたします。」

(事務局鈴木室長から事務局の紹介。)

【代表者の自己紹介】

葉委員「2003年に中国から来日した。来日当初、川崎市幸区に1年間ぐらい住んでいて、その後、関西や海外に引っ越したりしたが、2012年に川崎市に戻ってきて、今は多摩区に住んでいる。2年前に第10期の代表として選ばれて、今回また再任された。前は社会生活部会という部会で、年金や就職支援といった問題を中心に議論したが、先月にパパになったこともあり、11期では福祉とか育児といった問題を中心に議論したい。」

鈴木委員「ロシア出身で、川崎にはもう10年住んでいる。第10期に参加してよかったので、第11期も頑張りたい。子育て支援について、子どものこと、保育園、幼稚園、学校のこと、いろいろなことを知りたいし、多くの人たちにも知らせたい。」

チャクラヴァルティー委員「インド出身で、2011年に初めて日本に来た。2013年の2月からずっと川崎に住んでいる。今回、初めての参加だが、川崎市民の絆を強めて、いいまちづくりに貢献したい。」

金委員「国籍は朝鮮籍だが、川崎生まれ川崎育ちで川崎に30年以上住んでいる。第10期から引き続きの再任だ。外国籍で生活していて不便を感じることも多かったらいいのにも思うことがあっても、個人的なことだと思っ過ぎてきた。でも、自分に子どもが生まれて、保育園にお世話になって、小学校にお世話になって、母が具合が悪くなって介護施設にお世話になって、と改めて地域での人とのつながりとか、行政とか、考えることや思うことがあって応募した。第10期に参加して、いろいろな文化的な背景の方たちといろいろな視点から川崎市全体のために何ができるのかということ話を合ったりするのがとても楽しく、夢中で活動してきた。第11期では、これまで学んだことを生かして、頑張りたい。」

タカハシ委員「2007年にフィリピンから来た。話し合いたいテーマは、働いている親たちの支援と技術を使った外国人市民への支援について話し合いたい。ただ、それはあくまでも自分が個人的な興味を持っている課題なので、できるだけ外国人市民たちにとって大事な課題を調べて、その結果から見えてくる課題について優先して話し合いたい。」

レ ベト委員「ベトナム出身で2007年に日本にきた。川崎市にきたのは2012年で、もうすぐ4年が経つ。私は日本の大学を卒業して、今は働いているのだが、これまで、いろいろな日本人の子どもと外国人の交流の活動や企画に参加してきた。海外の考え方がたり、グローバルイノベーションだったり、小さいうちから触れる機会を提供することで、それは子どもにとって大きなチャンスになるのではないかと感じている。何か力になれることがあればやっていきたい。それともう1つ、私自身はまだ子どもはいないのだが、共働きで子どもを育てるのは難しいということもあり、その点についても改善できたらと思っている。」

幕内委員「中国から来て、川崎市に住んで7年になる。応募をしたきっかけだが、以前も募集案内が届いていたが、子どもが小さかったので応募しなかった。今は、子育てや学校の活動、PTA役員などいろいろ経験して、外国人が子育てで困ること福祉関係のことについてみなさんと話し合いたい。」

河本委員「日本に来て16年、川崎に住んで9年目になる。代表者会議に応募したきっかけは、情報伝達と福祉に関心があり、周りの外国人に話を聞くと川崎は外国人に住みやすいまちなのだが、でも、もっと改善できる点がたくさんあるようだ。そういった友達の代表として応募して10期から代表者になった。10期で学んだことを生かして、新しいメンバーのみなさんと一緒に話し合い、みんなのアイデアを合わせて川崎市がもっと住みやすいまちになるように頑張りたい。」

ヘイ委員「マレーシア出身で、第10期から継続で参加だ。私は、この春から大学院生なのだが、今回、この第11期では今後、自分に関わるであろう介護や年金といった問題の情報共有などについて取り組めたらと思っている。」

スタント委員「20年前にインドネシアから来た。当初は学生として来日したが、その後、家族ができて、子どもができて、川崎市にはもう10年ぐらい住んでいる。初めてのことで、いろいろ勉強しながら、経験しながら、子どもの教育について、みなさんと一緒に議論できればと思っている。」

ピーターソン委員「国籍はアメリカで、来日したのは7年前くらいだ。川崎に引っ越してきたのは、ちょうど1年前になる。代表者会議に応募したきっかけは、あまり周りに川崎に住んでいる外国人の知り合いがいなくて、もうちょっと交流ができたらいいなというのが1つ。それと、あとは自分の経験を生かして、

外国人が感じている問題をちょっとでも解決できて、住みやすいまちになったらいいなと思っただので応募した。」

河委員「国籍は韓国で、2007年から川崎に住んでいる。第10期から引き続きお世話になる。10期では社会生活部会という部会で活動したが、11期ではできれば違った分野でも、自分で勉強しながら市に対して提案、提言し、もっと住みやすい川崎市になるように貢献したい。」

バルトコバ委員「ウクライナ出身で、川崎に9年住んでいる。第10期からの再任だが、第10期ではいろいろな課題について学ぶことができた。その貴重な経験を第11期でも生かしたい。話し合いたいテーマは、多文化共生、子育て支援、それと外国人にとって一番大きい問題だと思ふ言葉の壁についてだ。」

ホサニ委員「モーリシャスから2001年に日本に来て、ずっと川崎に住んでいる。最初は幸区、その次は多摩区で今は高津区だ。私も今、子どもが2歳になって、ちょうど幼稚園とか保育園とかの件で区役所などに行つて、いろいろな相談をしているが、やはり壁とかさまざまな問題を感じていて、多分、それはほかの外国人たちも同じだと思つているので、子育てとか、保育園とか、幼稚園とか、学校について何か提案できればと思つている。」

牟委員「台湾出身で、5年前に日本に来た。今回、二度目の代表者になった。みなさんと、よりよい提言ができるように頑張りたい。私が努力したいことは2つある。1つ目は、学校で、国際理解、異文化交流教育について話し合いたい。2つ目は、国際結婚で生まれた子どもたちの二重国籍について話し合いたいと思つている。」

ドイツマー委員「ドイツ出身で、日本に初めて来たのは2004年、川崎に住み始めたのは4年前くらいだ。第10期からの参加で、引き続き相談窓口について話し合いたいと思つている。私自身は、日々の生活上で不便を感じていることはあまりないのだが、日本に住んでいる外国人は言葉の壁など、いろいろと困っていることがあると思ふ。そういったいろいろな課題を洗い出して、何ができるのかみなさんと話し合いたい。それと、今、ドイツと日本の二重国籍を持っている1歳の息子がいるので、外国につながる子どもの教育における支援や問題などについても話し合えたらと思ふ。」

韓委員「中国出身で、2011年に初来日して熊本、大阪、あと北海道を転々としたが、約2年前に川崎市に引っ越してきた。この外国人市民代表者会議に参加し

理由は、やはり自分のこれからのことを考えて、とくに子育てについて、今の状況を改善したいという気持ちがある。まだ子どもはいないが、たとえば、具体的に保育所不足とか、共働きの家庭の仕事と子育てのバランスとか、いろいろと問題があり、将来のことを考えて、みなさんと一緒に改善していきたいと思っている。」

ザスカ委員「ウクライナ出身。新任なので、まずは自分の意見を言えるように頑張りたい。話し合いたいことは、国際交流と私自身の目前の問題である就職支援などだ。」

ケゼングア委員「出身はケニアで、川崎市に住み始めてから5年目になる。第10期では福祉教育部に参加して、子育てとか学校、進学などについてほかの代表者と活動してきた。今回は、自分も数万人の中から選ばれた外国人市民の代表の1人ということもあり、なるべく川崎市に住んでいるたくさんの外国人が抱えているいろいろな問題をみなさんと協議して、決めた課題について取り組んでいければと思う。」

徐委員「韓国から来た。今まで2年、日本に住んでいて、ずっと川崎に住んでいる。ここで話したり、参加したりすることは、個人的に大きなチャンスと思って頑張りたい。今までAPECという国際機関と、釜山という韓国の市役所でも仕事をして、アナウンサーをやったこともある。そうした経験をもとにいろいろな問題を探して一緒に話し合いたい。基本的な生活から教育とか文化とか、環境問題についても一緒に話し合いたい。」

キースタ委員「アメリカ人だ。応募したきっかけは、仕事関係で非常にたくさんの企業とかかわる機会があるのだが、多くの企業が抱えている問題の1つは、人手不足の解消のために海外から労働者を受け入れたいのだが、受け入れた外国人が日本のことがわからなかったり、言語の問題があったりということで、帰国するという選択肢を選んでしまう人もいる。外国人を受け入れるにあたって、どうすればスムーズに受け入れることができるのか、みなさんと一緒に議論して、日本、川崎市に何か貢献ができればと思う。」

蔣委員「中国から来た。8年前に日本に来て、ずっと宮前区に住んでいる。日本は割と住みやすいと思うが、やはり最初に来たときは大変だと思う。今、息子も2人いて、学校の仕事もしている。みなさんと話し合いをしたいことは、子どもの教育と住みやすいまちづくりについてだ。」

ヴィラマー委員「フィリピンから来た。日本に来てから8年で、ずっと麻生区に住んでいる。私も10期からの再任なので経験者ではあるが、まだ慣れていないところもある。話し合いたいことは、子育てとか前にも出てきたが窓口のことなどについても深く話し合っていきたい。ナイス川崎と呼ばれるように、外国人の抱える課題をみなさんと一緒に改善、解決していきたい。」

鎌田委員「ブラジル出身で日本に住んで18年になる。ほとんど川崎だ。日本に住んで長いけど、ブラジル人以外の外国人とあまり交流がなかった。もしかしたらほかの外国人も一緒に悩みとか課題があるかと思ひ応募した。私の経験をいかして、あといろいろなみんなの話を聞きながら、何か力になりたい。」

ヒラチャン委員「国籍はネパールなのだが、生まれは日本で、ずっと日本にいる。川崎には2011年から住んでいるので、ちょうど5年ぐらいになる。10期からの再任で、10期では福祉教育部会で、いろいろと福祉について話をしてきました。今期は、自分が話したいこともあるのだが、それだけではなく、大勢の川崎に住んでいる外国人が抱えている課題をうまく集めて、この場で議論できるとよい。」

(伊藤副市長、唐仁原局長を囲んで記念撮影の後、休憩をはさんで再開。)

【正副委員長の選出】

<仮議長の選出>

鈴木室長が仮議長を務める (全員賛成) →承認

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき正副委員長の選出について説明。)

鈴木仮議長「今の事務局の説明でわからないところがあった方は、手を挙げてください。」

ザスカ委員「過半数の承認を得られなかった候補者について、もう一度立候補することは認めないということだが、委員長で承認を得られなかった場合に、副委員長にもう一度立候補することはできるか。」

事務局高橋専門調査員「事務局としては、委員長と副委員長は違う役職なので、改めて立候補されてもよいのではないかと考えている。」

鈴木仮議長「次に、事務局案とは違う方法で選出をしたいという意見の人はいるか。」

(なし) では、事務局案に賛成の人は手を挙げてください。(全員

賛成) 委員長の選出については、事務局案で決定となった。次に、副委員長
長の選出について決めたい。事務局案では、副委員長の選出も委員長と同じ
だが、事務局案の副委員長の選出について質問がある人はいるか。(な
し) 事務局案とは違う選出方法で副委員長を決めたいという意見の人はい
るか。(なし) では、副委員長の選出についても事務局案で賛成の人は
手を挙げてください。(全員賛成) 副委員長の選出についても、事務局
案で決定となった。

では、初めに委員長の選出を行う。委員長に立候補したい人は、手を挙
げてください。」

立候補 - なし

推薦 - デイトマー委員 (→辞退)

ケゼンダ委員 (→辞退)

河委員 (→辞退)

金委員 (→辞退)

ヴィラマー委員 (→辞退)

ヒラチャン委員 (→辞退)

ヘイ委員 (→承諾)

鈴木仮議長「ヘイさんには委員長になるにあつてのスピーチをお願いする。」

ヘイ委員「正直、委員長になるとは思っていなかったが、前期の委員長から何かや
ったらどうかと言われていた。今回は部会長をやろうかと思っていたが、み
なさん都合がつかないということなので。今、私は大学院生で、みなさんよ
りだいぶ年下ですし、経験も浅いと思うのだが、時間はちゃんとつくって、み
なさんのことをまとめられたらなと思う。いろいろと助けてもらうこともたく
さんあると思うが、ご協力いただけたらなと思う。よろしくお願いしま
す。」

鈴木仮議長「委員長をヘイさんをお願いするということで賛成の人は手を挙げてく
ださい。(22名) 過半数を獲得したので、委員長はヘイ・ジャフィさ
んをお願いをする。(拍手)

それでは、引き続き副委員長の選出に移る。先ほどと一緒に、まずは
立候補を聞いてから、次に推薦を聞いていく。」

立候補 - 河本委員

ディットマー委員

ケゼンダ委員

推薦 - 葉委員 (→ 辞退)

タカハシ委員 (→ 辞退)

ホサニ委員 (→ 承諾)

ピーターソン委員 (→ 承諾)

スタント委員 (→ 承諾)

鈴木仮議長「それでは、順番に1人2分程度でスピーチをお願いする。」

河本委員「10期でいろいろ勉強させていただいた。11期では、勉強したことを新しいメンバーとともにもっと生かして、外国人市民と日本人市民がともに暮らしやすい川崎市になるようにしたい。委員長をサポートする自信はあるので、できれば副委員長にさせていただけるとありがたい。」

ディットマー委員「立候補したいと思った理由は、まず1つは、今まで女性が少なかったかなということがある。今回、委員長がヘイさんに決まったので、もっと女性として頑張らましようということで、ぜひヘイさんを支援したい。今までの2年間で経験したことを生かして、川崎市がもっと日本人でも外国人でも安心して暮らせるようなまちになるように貢献できたらと思う。」

ケゼンダ委員「私も今期が2期目ということで、やはり10期でいろいろ経験させていただいたこと。たとえば、会議進行や本会議の運営などといった経験を生かしながら、みなさんといろいろ協議、協力しながら、この川崎市に住んでいる人たちのために、もう少し住みやすい、もっと住みやすい国際都市にできればなと思っている。」

ホサニ委員「今回、初めての代表者なので本当にこれから何をするか、まだ全然頭の中にない。これからみなさんと一緒に課題を見つけて、提言を出したいと思う。自分の経験のためにも、みなさんの力になれるように頑張りたいと思っている。」

ピーターソン委員「今回、こういうことになると思っていなかったが、川崎市に貢献したいという気持ちはとても強くある。みなさんがもっと住みやすいまち、外国人だけではなくて日本人市民とともに、一緒に交流して、もっといいまちになれたらと思っている。ヘイさんをいっぱいサポートできたらなと思う。」

スタント委員「初めての代表者なのでいろいろ経験が不足しているが、勉強しながら

委員長をサポートできたらいいかなと思っている。」

<投票>

[1回目]

河本委員 (→ 3 票)

ディットマー委員 (→ 4 票)

ケゼングア委員 (→ 10 票)

ホサニ委員 (→ 3 票)

ピーターソン委員 (→ 3 票)

スタント委員 (→ 1 票)

鈴木仮議長「1 番得票が多かった人が過半数に達していないので、1 番票が多かった人と2 番目に票が多かった人で、もう一度投票を行う。」

[2回目]

ディットマー委員 (→ 11 票)

ケゼングア委員 (→ 14 票)

鈴木仮議長「ケゼングア・エドワードさんが過半数を獲得したので、副委員長に決定した。(拍手) それでは、委員長と副委員長が選出されたので、2 人から改めてごあいさつをいただきたい。」

ヘイ委員長「改めまして、委員長になりましたヘイです。今後、2 年間みなさんどうぞよろしくお願ひします。エドワードさんもよろしくお願ひします。(拍手)」

ケゼングア副委員長「みなさん、改めまして、ケゼングア・エドワードです。これから2 年間、まだまだ先は長いのですが、みなさんと協力しながら、いろいろな活動をやっていきたいと思ひますので、引き続きご支援をよろしくお願ひします。(拍手)」

鈴木仮議長「この後の会議の進行は、2 人にお願ひする。ここで委員長、副委員長と事務局で簡単な打ち合わせを行うので、一旦休憩とする。」

【年間日程およびその他議事について】

ヘイ委員長「それでは、会議を再開する。まず、年間日程について審議する。

事務局から説明をお願ひする。」

(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明。)

ヘイ委員長「事務局から提案された会議日程でよろしいか。質問や意見のある人は、手を挙げてください。（なし）それでは、日程案について賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）2016年度の会議日程は案のとおりに決定した。毎回の会議に出席できるように、予定をあけておいてください。今後の会議の進め方については、次回の会議で話し合う。次に、市内視察について審議する。事務局から説明をお願いします。」

（事務局丸橋職員が資料4に基づき説明。）

ヘイ委員長「事務局からの説明・提案について、質問や意見のある人は手を挙げてください。（なし）それでは、まずは視察の実施に賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）視察を実施することが決定した。次に、日程について審議する。事務局案の7月31日について意見のある人は手を挙げてください。」

牟委員「31日は学校が夏休みだと思う。小さい子がいる人は子どもを連れて旅行とか、母国とかに帰る人が結構多いと思う。そうすると、参加できない人も多いのではないか。」

ドイツマー委員「単純な心配なのだが、結構暑い時期だ。9月や10月ではどうか。」

河本委員「視察はすごく大事なので早い方がよいと思う。なぜかという、川崎のいろいろな場所を自分の目で見て、具体的に審議に生かすことができる。早く視察をした方が提言を早めにまとめられるかもしれない。」

金委員「今日は日程で、内容に関しては次回ということだが、日程を先に決めてしまうと場所が限定されてしまうかもしれない。視察候補として、平和館と生涯学習プラザ、すくらむ21をあげたい。」

ヘイ委員長「日程と場所をあわせて考えたいという意見が出た。今、この場ではすぐに候補をあげられない人もいるだろう。今日は、ほかに決めなければいけないことがある。視察については、今日決めなければいけないことではないので、次回また話し合うことにする。次は、インターナショナル・フェスティバルについて審議する。事務局から説明をお願いします。」

（事務局丸橋職員が資料5に基づき説明。）

ヘイ委員長「事務局からの説明について、意見や質問のある人は手を挙げてください。（なし）それでは、参加に賛成の人は手を挙げてください。（賛成

多数) それでは、市民祭りへの参加が決定した。内容については、次回審議する。今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いする。」

【事務連絡】

- ・ 2015年度年次報告書の市長への提出について
- ・ 提出書類について
- ・ 次回の会議資料の発送について
- ・ 市内視察の希望について

ヘイ委員長「これで、2016年度第1回第1日、川崎市外国人市民代表者会議を終わりにする。みなさん、お疲れさまでした。」